

# 平成30年度 全国学力・学習状況調査の結果について

群馬大学教育学部附属中学校

今年の4月に、中学校3年生を対象として全国学力・学習状況調査が実施されました。その結果が届きましたので、本校の傾向と課題、今後の学力向上に向けた取組等をお知らせします。なお、この調査は生徒の学力や学習状況を把握・分析することにより、教育の結果を検証し改善を図る目的で実施されます。「国語」「数学」「理科」があり、国語と数学に関しては、「知識」に関する調査問題Aと「活用」に関する調査問題Bに分かれています。さらに、生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査も含まれています。

## (1) 国語・数学・理科に関して

- 国語Aは、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」全ての領域で、全国平均を上回る正答率でした。
- 国語Bも、全ての領域で全国平均を上回る正答率でした。特に「話すこと・聞くこと」「言語についての知識・理解・技能」の分野では全国平均を大きく上回りました。
- 数学Aは、「数と式」「図形」「関数」「資料の活用」全ての領域で、全国平均を上回る正答率でした。
- 数学Bも、全ての領域で全国平均を上回る正答率でした。特に、「数学的な見方や考え方」「資料の活用」の分野では全国平均を大きく上回りました。
- 理科は、「物理」「化学」「生物」「地学」全ての領域で、全国平均を上回る正答率でした。特に「化学的領域」「地学的領域」の分野で、全国平均を大きく上回りました。

## (2) 生活習慣や学習環境等に関する調査

- 自分で計画を立て、継続的に学習に取り組んでいる生徒の割合が、全国平均よりもかなり多い傾向にありました。
- 社会の動きに関心を持ち、自分からすすんで新聞やニュースを見る生徒の割合が、全国平均よりもかなり多い傾向にありました。
- 生徒の間で話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う生徒の割合が全国よりも多い傾向にありました。



## (3) 本調査結果から考えられる本校の課題

- 3教科ともに、選択式や短答式の問題に比べて、若干記述式の正答率が低くなっているため、身につけた知識や技能をより正確に活用できるようにすることが求められています。
- 毎日の就寝時間や起床時間が一定でない生徒の割合が多くなっているため、先を見通して自分の使える時間を把握し、より健やかに生活を送れるようにすることが求められています。

## (4) 課題解決のための方策

(学校教育目標の3つの観点で特に強化していきたい学力向上に向けた今後の取組)

- 【共生】本校の特色でもある学友会活動を今後も充実させ、生徒が話し合いを通して集団決定したことに責任をもって実行できるように支援していきます。
- 【創造】各教科の学習では、授業等を通して身につけた知識や技能を正確に活用できる思考力・判断力・表現力を今後も育成していきます。
- 【健康】学級活動や学校保健等を通して生徒に伝えている質の良い睡眠の重要性を再度確認し、受験期の生活スタイルの安定と併せて指導を充実させていきます。